



1月ニ戸食だより

◆～毎月19日(食育の日)から1週間は、「ニ戸食週間」、
毎月25日は「ニ戸食の日」です～

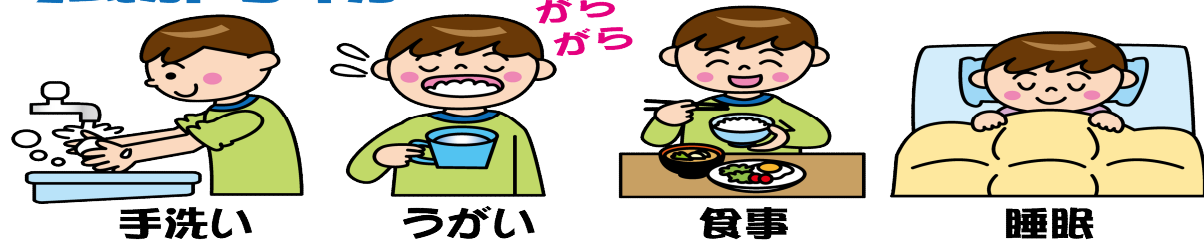
1月こんだてのおしらせ
はこちらからご覧いただ
けます。



ニ戸市学校給食センター
給食だより

冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。昔から「一月いぬる二月逃げる三月去る」といわれてきたように、月日の流れを早く感じる季節です。体調管理にはより一層気をつけて、1日1日を大切に過ごしていきたいですね。

風邪予防 3学期を元気に過ごすために



1月17日はおむすびの日

1995(平成7)年1月17日は、阪神・淡路大震災が起きた日です。
後の2000年(平成12年)、「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」によってこの日は「おむすびの日」として記念日に制定されました。

寒さが厳しい非難生活の中でのボランティアによる温かい「おむすび」。ありがたい(有難い)の反対の意味をもつ言葉、当たり前。毎日の食事は決して当たり前ではないこと、食べ物の大切さや有り難さ、人の心の温もりを感じながら毎日の食事をいただきたいですね。



今年度は「北緯40度ぐるり食の旅」がテーマです。
ニ戸市には、気候や風土を活かして生産された産物、食の宝や郷土料理があります。北緯40度に位置するニ戸市や世界の料理を取り入れました。また、食に関する指導で児童が作成した献立も登場します。



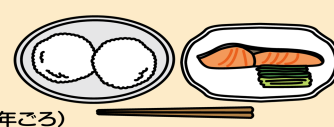
1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

日本の学校給食のあゆみ

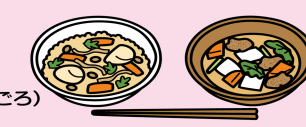
学校給食の始まり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12(1923)年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなっていました。

おにぎり
焼き魚
漬物
(明治22年ごろ)



五色ごはん
栄養みそ汁
(大正12年ごろ)



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク
トマトシチュー
(昭和22年ごろ)



コッペンパン・ミルク
クジラの竜田揚げ
せん切りキャベツ
(昭和25～30年ごろ)



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29(1954)年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。昭和51年に米飯(ご飯)が正式に導入されるとカレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

カレーライス
牛乳・塩もみ
ゆで卵
(昭和51年ごろ)



学校給食の内容は時代とともに変化してきました。いつの時代も変わらずに、子どもたちがおいしく食べて、健やかに成長できるようにとの願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。